

# 大阪府市場だより

大阪府中央卸売市場



総合食品供給基地

第359号 令和4年1月28日  
発行 大阪府中央卸売市場協会（茨木市宮島1-1-1水産棟3階）  
連絡先 TEL：(072)636-3698、FAX：3699、メール：office@fu-ichiba.jp  
U R L https://fu-ichiba.jp



絵：「まぐろ」白石千以子

## 常駐代表者会議

標記会議（山口秀雄議長）が、新年互礼会を兼ねて、1月5日に管理棟7階で開催されました。その議事概要は次のとおりです。



植田孝市場協合理事長が出席され、「昨年は、コロナによる自粛ばかりが言われ、なにか委縮するような雰囲気か漂っていた。私は常々、自粛はよいが委縮はするなど言っている。自粛はもちろん必要だが、委縮せずに本業のほうで頑張つて、新年は市場全体が繁栄し、また、各社の繁栄があることを祈念したい。いず

れにしても、厳しい年ではあるが、我々だけが苦しむわけではない。どこも同じ。落ち込んでいてはいけません。よその企業よりも一歩前に出ればよい、そういう気持ちをもつて市場全体、一致団結してこの難局を乗り切つて、よき年になることを願っている。」と新年の挨拶をされた。

次に、森場長が吉村大阪府知事の祝辞を代読された。次ページを参照して報告が行われた。

7ページを参照 最後に議長より「年末年始の市況はあまりよくなかったようだが、裏を返せば、今年はよくなるでしょう。皆さん、頑張つてやっていきましょう。新年互礼会を兼ねた常駐代表者会議をこれで終わります。」との発言で散会となった。



注意  
注意

フグによる食中毒を防止しよう！

【フグの混入にご注意を！】  
子アジやイワシ、釜揚げしらす等の商品に「フグ」が混入していたという事例が発生しています。ご存じのとおり、フグにはテトロドトキシンという猛毒が含まれているため、有毒部位を除去していないフグを誤って食べると、しびれ、運動麻痺等の神経症状が現れることがあります。重篤な場合には死に至ります。魚介類を取り扱う事業者は、選別や小分け等を行う際、十分に確認を行い、フグを含め有毒魚類を確実に排除してください。

フグの混入事例	
発生時期	内容
平成24年8月	カクチイワシにクロサバフグ(推定)の稚魚が混入
平成24年8月	釜揚げしらすにシロサバフグ(推定)の稚魚が混入
平成26年8月～9月	豆アジにシロサバフグ、コモンフグの稚魚が混入
令和3年8月	真あじにシロサバフグの稚魚が混入

【フグの有毒部位の廃棄方法にご注意を！】  
過去に他の卸売市場において、魚のあら廃棄場からフグの卵巣を持ち帰り調理して食べたことによる食中毒事件が発生しています。



フグの有毒部位は、他の食品や廃棄物と混同しないように、各店舗に設置している施設できる容器等に一時保管し、焼却等衛生上の危害が生じない方法で確実に処分してください。(大阪府水仲ふく組合に加入されている事業者は、卸売市場内の所定の鍵付き有毒部位専用廃棄容器に確実に廃棄してください。)

フグを取り扱われている事業者は、有毒部位の廃棄方法について今一度ご確認いただき、適切な廃棄の徹底をお願いします。  
なお、フグの有毒部位には、肝臓や卵巣だけでなく、眼や脳、エラ等も含まれますので、これらにつきましても適切に廃棄するようにしてください。

フグの有毒部位は、他の食品や廃棄物と混同しないように、各店舗に設置している施設できる容器等に一時保管し、焼却等衛生上の危害が生じない方法で確実に処分してください。(大阪府水仲ふく組合に加入されている事業者は、卸売市場内の所定の鍵付き有毒部位専用廃棄容器に確実に廃棄してください。)

BCP伝達訓練

阪神・淡路大震災から27年となる1月17日、地震等の災害発生時において、場内事業者から場内の被害情報を府・管理センターに集約する伝達訓練が実施されました。

大阪府新型コロナウイルス対策本部会議の要請 (令和4年1月27日から2月20日まで)

- 【府民の皆様へ】
  - 混雑した場所や感染リスクが高い場所への外出・移動を自粛
  - 営業時間短縮を要請した時間以降、飲食店にみだりに出入りしないこと
  - 会食を行う際は、4ルールに留意すること
    - ・同一テーブル4人以内、
    - ・2時間程度の飲食、
    - ・ゴールドステッカー認証店舗を推奨、
    - ・マスク会食の徹底
  - 感染防止対策(3密の回避、マスク着用、手洗い、こまめな換気等)の徹底
- 【企業の皆様へ】
  - 在宅勤務(テレワーク)、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取り組みを進めること
  - 休憩室、喫煙所、更衣室などでマスクを外した会話を控えること
  - 国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う事業者及びこれらの業務を支援する事業者は、BCP(事業継続計画)の点検を行い、必要な業務を継続すること
  - 業種別ガイドラインを遵守すること

大学連携 「有機野菜の販売促進効果を検証」

1月18日に大阪成蹊大学経営学部経営学科食ビジネスコース2年生23名がPBL(課題解決学習)の結果まとめを同大学内で発表しました。今回のPBLは消費者に有機野菜の購買意欲を高めたいため、その魅力をPOPで表現し、販売促進することを目的として行いました。

学生のみなさんは中央卸売市場の概要を学習するとともに、スーパーなどの青果物売場を見学した上で企画提案、POP作成を実施し、京阪百貨店すみのどろ店において売り場実習を行い、POP効果を検証しました。検証実施前後の有機野菜の販売額を比較したところ、前の週に比べ少しではありますが売り上げが増加しており、一定の効果が見られた一方、もう少し改善できる点も判明したところです。

コロナ禍により学外関係者は参加できなかつたため、大阪府並びにご協力いただいた林田商店さんから、発表の動画と資料に基づき講評を行いました。

学生らは、将来、食ビジネスに携わる人として、課題に取り組み、それぞれに学んだこと、工夫したこと、気付いた点を発表し、共有することで、ひとまわり大きく成長されたことと思えます。(協力：林田商店)



来月のお知らせ

○人権研修会

2月下旬に、標記研修会を管理棟7階の大会議室で開催する予定です。

なお、1月21日に予定していた安全運転講習会は、新型コロナウイルスの拡がりにより中止となりました。

○府議会2月定例会

2月24日より開催される標記において、令和4年度の市場の予算案が審議されます。

水産新年互礼会

標記互礼会が1月5日の4時40分より、せり場で開催されました。

吉田水産物卸協同組合副理事長の司会のもと、小笠原(株)うおいち支社長が「コロナに加えて品薄もあり昨年は大変厳しい環境が続いた。今年はこれら乗り越えて頑張りたい。また、市場の建替えの検討も進むとのこと希望をもって取り組みたい。オミクロンが拡がっており安全にはしっかりと取り組みたい」と挨拶をされました。



続いて森場長が「今年の干支は壬寅。厳しい環境を乗り越えて芽が吹き始める年とのこと。厳しい環境を乗り越えてますます市場が発展することを祈念。建替えについては、やっとスタートラインに立てたところ。日本を代表する市場となるよう頑張っていくたい。」と挨拶をされました。

年末年始の市況

標記について常駐代表者会議で報告がありました。

○青果部

最後に花木(株)大水支社長の音頭により、ジュース・コーヒーによる乾杯が行われました。



マグロの初競り

令和4年の初競りが5日早朝4時15分から行われました。



卸売業者取扱高

《12月・単月》

	種類	数量(トン)	前年比(%)	金額(千円)	前年比(%)
青果	野菜	10,482	98.4	2,135,306	107.5
	果実	5,214	96.4	2,193,850	106.9
	小計	15,696	97.7	4,329,156	107.2
水産物	生鮮水産物	1,565	88.7	1,836,379	106.8
	冷凍水産物	289	83.0	596,575	94.5
	加工水産物	1,047	98.2	1,208,341	92.9
	冷凍食品	332	94.0	198,872	90.7
	小計	3,233	91.5	3,840,167	99.2
総計		18,929	96.6	8,169,324	103.3

《4月～12月・累月》

	種類	数量(トン)	前年比(%)	金額(千円)	前年比(%)
青果	野菜	87,796	99.1	18,082,040	91.6
	果実	38,098	104.7	14,687,339	102.7
	小計	125,894	100.7	32,769,380	96.2
水産物	生鮮水産物	13,609	94.5	11,570,792	96.4
	冷凍水産物	1,842	83.1	2,497,229	93.7
	加工水産物	8,217	95.9	8,914,050	96.3
	冷凍食品	2,919	98.3	1,535,061	98.1
	小計	26,586	94.4	24,517,132	96.2
総計		152,480	99.5	57,286,512	96.2

《初荷入荷量》

	前年		令和4年	
	数量(kg)	数量(kg)	数量(kg)	前年比
野菜	526,300	416,500	79.1%	
果実	140,800	163,400	116.1%	
青果合計	667,100	579,900	86.9%	
生鮮	93,500	88,200	94.3%	
冷凍	6,800	6,000	88.2%	
加工	52,700	50,500	95.8%	
水産合計	153,000	144,700	94.6%	

昨年とほぼ変わらないが、一昨年と比べると80%。年末に必要なウニは、赤潮もあり高値推移。ブリ、鯛、フグといった養殖モノは数が少なく全面高。今年度も高値推移の見込み。マグロも船員不足等で高値、冷凍モノも全面高と厳しい環境。これを打破することが課題と認識。

・榎本理事長(水産物卸協同組合)：クリスマス寒波から北海道モノが品薄。冷凍カニは去年の倍の値、養殖モノもすべて値上がり。売上はそこそこでも、利益は大きく減少。厳しい年末であった。

・巽社長(北部冷蔵サービスセンター)：年末商材が全般的に高く、カニなどは、そもそも在地量が少なかつた。当社としては電気代アップが今年の課題。

○水産部  
・小笠原支社長(株)うおいちが卸を代表：数字的には

形を取り組みたい。

・西田理事長(青果卸売協同組合)：働き方改革なのか元旦から休む小売りやSPAが増加。仲卸も日常とあまり変わらないところが増加。組合としては、昨年は廃業がなく喜んでいるが、建替えの方向に舵をきって希望をもてるような形で取り組みたい。



### 新年のご挨拶

大阪府中央卸売市場協会理事長 植田 孝

新年明けましておめでとございます。令和4年の年頭にあたり、謹んで新春のお喜びを申し上げますとともに、旧年中に賜りました当市場協会に対するご支援・ご協力に心より厚く御礼を申し上げます。  
昨年を振り返りますと、気候変動による自然災害に襲われることが多く、被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

そして、新型コロナウイルスです。緊急事態宣言等により、飲食店を始めとする多数の納入先が経営悪化したことで、当市場内事業者も大変厳しい状況に直面いたしました。  
このことから山橋前理事長に引き続き、昨年8月に吉村大阪府知事に利用料金の減免を求める要望書を提出したところ、場長はじめ府の関係者の皆様にご尽力賜って新たな減免制度を導入いただき、多くの事業者が助けていただきました。この場をお借りして

改めてお礼を申し上げます。しかしながら、現在も新型コロナウイルスによる混乱は落ち着いておりません。  
引き続き、適宜、迅速かつ適切なご支援を期待いたしますが、一方で、我々事業者としても、「自粛しても委縮はするな」「改革まではいかなくとも日々の改善には常にチャレンジ」といった気概をもって取り組みたいと思えます。  
このように、なかなか前に進みがたい状況ではありますが、新しい時代にふさわし

い市場に向けての新たな第一歩も踏み出されました。  
3年ほど前から管理センターが中心となり、場内関係者による検討会議で建替えが議論され、一昨年から府においても市場の将来のあり方の検討が続けられてきました。  
そして昨年夏に、府が市場再整備に係る市場調査を実施され、10月には、知事が議会で「来年度から、民間資本を活用した建替え再整備の具体的な検討を進める」と表明されたところです。  
恵まれた立地条件など当市場の強みを最大限に発揮し、将来の市場の発展につながることを期待することを我々も

一致団結してこの難題に取り組み所存です。  
今年の干支は、壬寅(みずのえとら)。厳しい冬を越えて芽が吹き始める新しい成長の礎となる年といわれています。  
何はともあれ、感染症拡大が一日も早く収束すること、市場開放デーをはじめとする各種行事が正常になることを心より願っております。  
結びにあたり、大阪府、茨木市、国会議員、府議会議員各位のご指導・ご支援、市場関係各位のご協力を切にお願い申し上げますとともに、本年が皆様方にとりまして、良い一年となりますことを心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



### 新年のご挨拶

大阪府知事 吉村 洋文

新年あけましておめでとございます。令和4年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染者が府内で初めて確認されたから間もなく2年となりました。

より、いったんは落ち着いた状況にありました。  
ただ、新たな変異株であるオミクロン株の市中感染が確認されており、予断を許さない状況にあります。  
引き続き、緊張感を持って

回復させ、再び成長軌道に乗せていく一年としていきます。  
さて、大阪府中央卸売市場は、今年で開設44年目を迎えますが、コロナ禍等による府民の消費行動の変化に加え、流通形態の多様化や情報通信技術の急速な進展など、市場を取り巻く環境の変化に適した対応が求められています。

として、民間資本を活用した建替え再整備の具体的な検討を進めていくとしたところです。  
今後とも、府市場が、大阪の成長・発展の基盤となる都市インフラの一翼を担い、府民への安全・安心な生鮮食料品の安定供給の機能を十分に発揮できるよう取り組むとともに、建替え再整備の検討を精力的に進めてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

市場関係者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、日々、生鮮食料品の安定供給に大変ご尽力をいただいておりますこと、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

当初は未知のウイルスへの対応に苦慮しましたが、府民のいのちとくらしを守ることを最優先に、府民・事業者の皆さまの多大なご協力をいただきながら、全力で感染防止対策に取り組んできました。  
昨年も感染症拡大による厳しい時期がありました。が、ワクチン接種の促進等に

令和4年は大阪・関西万博をインパクトに、大阪経済を

このようなか、一昨年からは、将来の市場に必要な機能や再整備の手法等について検討を進め、他市場との差別化を図りつつ、西日本における食品流通の中核を担う市場となるよう、大阪府

結びに、本年が皆様にとって実りある素晴らしい年となりますことを祈念し、新年の挨拶といたします。



### 新年のご挨拶

大阪府中央卸売市場長 森 久子

新年明けましておめでとうございます。令和4年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄されることが多かった1年でしたが、そうした中であつても、市場関係者の皆さまにあつては、感染予防の徹底に努めながら、大阪府民への生鮮食料品の安定供給にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

また、このような中、場内事業者の皆さま、当市場を管理運営いただいている大阪府中央卸売市場管理センター株式会社におかれましては、日々、効率的な市場運営にご尽力いただき、改めて感謝申し上げます。

さて、市場を取り巻く環境は、少子高齢化の進展や消費者ニーズの多様化のみならず、生鮮食料品の流通構造も年々高度化、複雑化しており、市場運営も厳しさを増して

おります。

当市場は、開設から今年で44年目を迎えますが、このような社会経済情勢の大きな変革に対応するため、一昨年から市場の将来のあり方検討を進めてまいりました。

その中で、広域中継拠点市場（ハブ市場）化や品質管理・衛生管理の高度化など当市場の将来めざすべき姿を明らかにするとともに、その実現に向けた再整備手法等の課題の洗い出しを行いました。

これを受け、本年からは、民間資本を活用した建替え再整備の具体化に向けた検討を進めてまいります。この検討にあたっては、市場関係者のご意見も幅広くお聞きしながら、他市場との差別化を図りつつ、西日本における食品流通の中核を担う市場の実現に向けて取り組んでいく所存です。

一方、建替え再整備の具体的検討を進める間、市場内関係者間で策定した市場活性化の取組指針である「経営展望」に代わり、引き続き競争力のある市場の実現をめざす取組みを進めるため、開設者として当市場の経営戦略を新たに策定いたします。

引き続き、場内事業者の方々や指定管理者と連携しながら、効率的な市場運営に努めるとともに、更なる市場の活性化に向けた様々な取組みを進めてまいります。

本年も、大阪府中央卸売市場がその機能を十分に発揮するとともに府民の皆様へ安全、安心な生鮮食料品を安定的に供給できるよう市場関係者の皆様方と一体となつて取り組んでまいりますので、引き続きご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。結びに、皆様の益々のご健勝とご多幸を心から祈念いたしました。年頭のご挨拶とさせていただきます。



### 全面建替えに向け発進

大阪府中央卸売市場管理センター(株) 統括 宮前 茂

代表取締役 山口秀雄

明けましておめでとうございます。

昨年はオリパラ、松山英樹、大谷翔平、オリックスバファローズ、ビッグボスなどスポーツ界では感動と勇気を与えてくれた「あっぱれ」な話題が多かった反面、新型コロナウイルス感染症状況は、落ち着いているもののオミクロン株の出現により、まだまだ先が見えない戦いが続きそうに残念でなりません。

市場関係者の皆様方には、公的使命として苦境にめげず生鮮食料品の安定供給に努めていただいております。私共の誇りとするところです。

新しい年を迎え、新型コロナウイルスが一日も早く収束し商売に専念できる環境になりますことを願うばかりです。

管理センターにおきましては、常に市場関係者の皆様のニーズを反映しながら、スピード感をもって、効率的・効果的な事務事業の執行に努めるとともに市場活性化事業を積

極的に進めてまいりました。

こうした実績も評価され、次期指定管理者の選定委員会で当社が候補者として選定され、昨年末の府議会における議決を経て、知事指定を受けました。初心に立ち返り、引き続き市場の管理運営業務を担わせていただきますので、皆様方のご支援とご協力をお願申し上げます。

市場の建替えにつきましては、将来を見据えたあるべき姿を検討するため、いち早く検討委員会を立ち上げ、昨年

3月、素案として取りまとめましたが、大阪府におきましても、サウンディング型市場調査を実施されるなど積極的に検討が進められてまいりました。

この間、吉村知事が市場の視察にお見えいただき、昨年9月議会におきまして、大阪維新の会の質問を受け、知事から「民間資本を活用した建替え再整備の具体的な検討を進めていく」との積極的な答弁がなされ、全面建て替えへと大きく舵が切られました。

こうした方針を受け、大阪府におきましては、4月以降、全面建て替えに向けた基本計画の策定に着手される予定になっており、ビッグプロジェクト

エクトがいよいよ本格的に始動します。

管理センターといたしましては、基本計画の策定に当たって、場内事業者を始め市場関係者の意見や提言を反映させながら、全国に類を見ない魅力ある市場となりますよう大阪府と連携してまいります。

市場の将来のあり方を左右する最も重要な年になりますので、真のように優れた行動力と強い信念をもって課題解決に向かって果敢に挑戦してまいります。

関係各位の一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とします。



コールドチェーンの一端を担う  
(株)北部冷蔵サービスマスター  
代表取締役社長 巽 計廣

新年あけましておめでとう  
ございます。  
旧年中は場内の皆様方には  
当社の業務運営にご理解、  
ご協力をいただき誠にありが  
とうございました。心よりお

礼申し上げます。  
昨年は新型コロナウイルス  
の感染症のワクチン接種が  
かなりすすんだなか、史上  
はじめて無観客での東京20  
20オリンピック、パラリン

ピックが開催され、日本人  
アスリートの活躍に湧き、  
また、エンジンオイルの大谷翔  
平選手などスポーツ界では  
明るい話題が多い年でもあり  
ました。  
その一方でアメリカと中国  
の覇権争いなど世界中に不穏  
な気配が漂い、半導体不足、  
コンテナ不足による原材料の  
高騰など生活必需品の値上  
げ、また冷蔵庫業にはつらい

原油高に伴う電気料金の値上  
げが経営を圧迫しています。  
冷蔵庫業としては、年間を  
通じてシラスの豊漁もありま  
した。が、年末商材の、特に  
カニ、数の子、イクラ、サケな  
ど大半のもので高値に推移  
し、例年ほどの荷動きがな  
かったように思われます。  
本年は北京オリンピック  
開催に対する各国の対応、  
オミクロン株の動向、原油

価格の動向、魚介類の単価な  
ど不透明なことが多く、当社  
としても相変わらず人材の  
確保には苦労しています。  
ただ、昨年末ブラット  
ホームの改修工事を行った  
ことでもあり、心機一転市場  
のコールドチェーンの一端を  
担うよう努めてまいりますの  
で、皆様方のご理解とご協力  
の程よろしくお願い申し上げ  
ます。

茨木神社で奉納祈願

協会(植田孝理事長)で  
は、商売繁盛、新型コロナ  
の終息を祈念して、1月  
8日の早朝、茨木恵美須  
神社に、15回目となる招福  
大マグロと青果物(メーク  
イン、玉ねぎ、白菜、りんご、みかん)  
を奉納しました。

奉納品は、大庄水産  
(山口達也社長)と青果卸売  
協同組合(西田景典理事長)  
にお世話いただいたもので、  
午前8時に、法被姿の関係  
者18人が恵美須神社の  
拝殿に運び込みました。  
奉納式では、関係者が  
参列する中、宮司のお祓い、  
祝詞に続いて代表者が玉串  
を奉奠し、全員で商売繁盛  
新型コロナの終息を祈願  
しました。



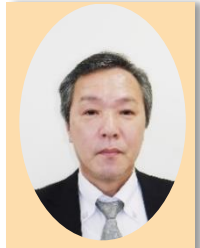
宝恵籠の場内練行

1月11日の9時半頃、  
生憎の雨のなか、地元茨木  
神社の恵美須講の福娘6  
人をはじめ「宝恵籠」一行  
約30人が来場しました。

まず、今村恵美須講元  
から訪問の挨拶があり、  
次に森場長が一行に歓迎の  
挨拶をされました。

その後、一行は打ち鳴ら  
される太鼓と鉦に合わせ、  
「商売繁盛で笹もつて  
こい」の掛け声を響かせな  
がら、青果卸売場から水産  
卸売場を練り歩きました。  
ご祝儀の申し出の際に  
は、福娘から奉納者に福笹  
が手渡され、今年一年の  
「招福来幸・商売繁盛」を  
祈念して関係者全員で一本  
締めが行われました。





安定供給を目指し変革を  
(株)大水 執行役員  
北部支社長 花木 章男

新年明けましておめでとうございます。  
謹んで新年のご挨拶を申し上げますと共に旧年中に賜りましたご厚情に御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの変異による感染拡大の波が国内はじめ世界中の人々の経済活動に大きな打撃を与え、社会環境に大きな変化を招きました。

我々水産業界においては、資源・地球温暖化の問題が、秋口のさんま水揚量は3季連続で最低記録を更新、北海道でまさかの赤潮発生による水産物への壊滅的被害、養殖魚の在池量不足、またコロナ禍による世界中の物流の停滞・労働者不足、水揚げ不安定等が絡み、相場の高騰、商品の生産・搬入遅延・不足等、水産物は多大な打撃を受けました。

新年を迎えて、変異コロナウィルス感染拡大は予断を許さぬ状況ではありますが、このコロナ禍の中、新しい社会生活環境に沿い、弊社は、変革を推進し、水産物の安定的な供給を目指して参ります。

また、既存施設のHACCP対応の衛生管理・安心安全管理においても、弊社、市場関係者の皆様方と協力し競争力のある環境づくりに貢献出来るように努力して参りますので、今後とも皆様方には変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げます。



卸売市場を取り巻く環境の変化  
大阪府青果卸売協同組合  
理事長 西田 景典

昨年も自然の猛威をまざまざと見せつけられた一年でございました。

被災地の皆様の心労は、言語に絶するものと拝察し改めてお見舞いを申し上げます

と共に一日も早い復旧復興をお祈りする次第です。

卸売市場は、高い公共性・公益性を有しており、重要な社会的機能・役割を果たしています。が、どんなに緻密に

構成された組織であっても、どんなに優れた品質の商品であっても、それぞれを取り巻く環境に適用できなければ十分に力を発揮する事は出来ません。

卸売市場を取り巻く環境の変化が大きいと考えられるのが、①生鮮EDI等の情報通信技術の導入が遅れる中で業務の効率化、②高齢化等により生産量が減少すること

による集荷の困難さへの対応、③トラックドライバーの人手不足と労働環境が問題視される中での市場出荷等のための物流改善、④改正卸売市場法とそれに対応した新業務規程下での新たな可能性など、卸売市場に求められる課題に对应し、誇りある卸売市場を創り上げ、業界発展のために尽力したいと考えており、そのために全国青果

卸売協同組合連合会と共に考え、取り組む所存で有ります。

本年も、市場関係者とともに安全・安心な生鮮食品の安定供給のため府民の信頼と期待にこたえる流通拠点としての役割を果たせるよう、より一層努力して参りたいと存じますので、皆様方の相変わらぬご支援、ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



虎に負けない行動力で実践  
大阪府水産物卸協同組合  
理事長 榎本 昭弘

明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの感染状況は減少傾向にあるものの、新種のオミクロン株がじりじりと忍び寄り予断を許さ

ない状況になりつつありますが、沈滞ムードを打ち破り、今年こそ商売が繁盛し、明るく希望に満ちた年となりますことを願っています。

厳しい経営状況を少しでも緩和するため、施設使用料を免除するよう一丸となって大阪府に求めてまいりましたところ、減免制度が創設され、多くの組合員の方に活用していただくなど一定の成果が得られたものと存じます。

また、HACCPに沿った衛生管理が完全義務化されましたことから、閉鎖型の新市場が完成するまでの措置

として、各事業者の個別空調施設に対する助成制度が創設されましたが、多くの組合員が利用できるよう制度の継続と弾力的な運用が図れるよう要請してまいります。

市場の全面建替えにつきましては、吉村知事が府議会において全面建替えの方針を表明されましたことから一気に進展するものと思われ、府において策定される

基本計画において組合員の意見が十分に反映された内容になるよう努めてまいりますので、できるだけ多くのご意見をいただきたいと思います。

虎に負けない実践力をもった課題を克服してまいりますので、組合運営に対し一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年のご挨拶とさせていただきます。



次世代府市場の創造へ  
大阪北部中央青果株式会社  
代表取締役社長 三木 博司

新年明けましておめでとうございます。  
謹んで新春のお慶びを申し上げますと共に、旧年中に賜りました格段のご支援、ご協力に対し、心より厚く

御礼を申し上げます。  
昨年の市場取扱は、一昨年の様な所謂「巣こもり需要」による特需はなく、夏場以降、降雨・日照不足により供給が減少すると価格が上昇し、

その後、生産が安定し、潤沢に供給された商品は価格が下落しました。  
令和4年1月1日にRCEPが発効したことにより、生鮮食料品の流通や価格について、国内生産・需要だけでなく海外の影響を今迄以上に受ける事が予想されます。  
青果物の流通変革期ともいえる中、吉村知事は昨年「来年度以降、民間資本を

活用した建替え再整備の具体的な検討を進めていきたい」と方向性を示されました。  
しかしながら、全面建替えには十年・十五年の年月を要しますのでスピード感を持って、生鮮食料品の流通の流れ、産地・販売先のニーズに合った中央卸売市場の構築に邁進できればと考えております。  
卸売市場法の改正後、中央

卸売市場毎に特色を出せるようになりました。  
前例にとらわれず、新しい中央卸売市場の創造を開始する一年になればよいと思います。  
年頭にあたり、関係各位のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げますと共に、尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



時代の変化に対応  
大果大阪青果株式会社  
専務取締役  
北部支社長 酒井 孝博

昨年は世界的に新型コロナウイルス感染症発症のパンデミックが続く中、日本国内は10月緊急事態宣言解除後減少傾向が続いてはいますが、まだまだ予断を許さない状況です。

世界的な動向を見ても原油高・異常気象・原材料不足によるサプライチェーンの崩壊・入国規制に伴う人手不足等、直接的な影響を受けている業界に加え、ここに

来て間接的な影響を受け始めた業界が多方面にわたり出始めています。  
青果業界におきましても、今後、運送関係の規制改革・市場荷受け体制の強化・産地の生産出荷経費の増加等大きな課題が山積みされている状況です。  
ここ数年間、北部市場最大の課題であり、大阪府・管理センター中心に場内関係者

一体となり会議を繰り返してきた全面建て替え構想に関して、10月府議会にて吉村知事が「来年度から民間資本を活用した建て替え再整備の具体的な検討を進める」と表明されました。これからが本場のスタートであり、当市場の強みを最大限発揮し将来当市場発展に繋げる様、大阪府・管理センター・場内関係者と共に取り組んで行きます。

弊社としましては、我々市場は日本の食を守り、国民の食生活を支える唯一無二の存在である事を自負し、先ずは足元をしっかりと固め、世の中の急速な変化に対応するため「日々改善」に取り組み、信頼できる市場として大阪府・管理センター・青果組合の皆様方と協力し、市場発展の為に努力して参ります。



市場再整備の方針決定を受けて  
株式会社 取締役常務執行役員  
北部支社長 小笠原 元功

昨年は2年越しのコロナ禍によって大変苦戦を強いられた一年でありました。  
9月末には緊急事態宣言が解除されましたが末端への販売状況は依然として低調で

あり、大きな変化はない様に感じます。  
水産物の市況は、国内養殖物の高値推移、輸入物も世界的に買付け意欲が高く、日本の買い負けが続いている状況

です。為替も円安が進み、全てが高値相場となっております。今年には昨年まで以上に厳しい環境になると予想します。  
北部市場については昨年、大阪府議会で建替え再整備の方針が決定されました。このことは、北部市場が後世に向けても必要な市場であるということが公に認められたことを表しています。建替え

完了までには長い年月がかかりますが、その間も必要な投資は行い、ハブ市場としての機能を維持する必要があります。  
昨年は市場法の改正も受けて仲卸様の直接集荷額が若干の伸びを示しておりますが、我々荷受はいっそう荷引きに注力し、仲卸様と共に市場の維持発展に貢献してまいります。

さて、当市場の指定管理者には評価委員会においても高い評価を得ている大阪府中央卸売市場管理センター(株)が本年度以降も改めて指定される見込みであり、当社としても心強い限りです。指定管理者とも連携を密にし、感染症対策にも引き続き万全を期して取り組んで参りたいと思っておりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。